

# 未来の自分を見つげる日

悩んで 迷って 回り道  
やりとげてこそ「成長」です



**あ** なたは子どものとき、何に  
なりたいたいと思っていましたか。  
あこがれの存在はいましたか？

香川大学教育学部には、子どもたちが毎年楽しみにしている「大イベント」「未来からの留学生」があります。これは子どもを未来の「留学生」として香川大学に招き、様々な講座を体験してもらおうというものです。2011年に開催された第10回「未来からの留学生」では30を超える講座が開かれ、香川県下から集まった1200人を超える来場者がキャンパスでの一日を楽しみました。

教育学部教科教育コース・音楽領域の学生はミュージカルを行い、数学領域の学生はバズルのようなユニークな方法で数学の面白さを解説しました。技術領域の学生によるLEDスタンド作りでは子どもたちがハンダ付けにチャレンジ。百人一首では国語領域の学生がブライドを賭けて子どもたちと対戦します。

色々の講座を見て驚くのは、学生や大学院生がメインで活躍するイベントの規模や完成度の高さです。小方朋子准教授は五代目の実施委員長として、毎年タイトなスケジュールの中で奮闘する学生を温かく見守っています。

「未来からの留学生」は教育学部の2年生を中心に運営されるので教育実習の準備的な意味を持っています。

## KEYWORD

### 【未来からの留学生】

香川大学教育学部が主催する地域開放行事。当日参加できる「自由参加型講座」とハガキで応募する「事前申込型講座」の2種類があり、OBや高校生が運営に参加する企画もある。今年度は10月14日(日)開催。詳しくはHP (<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/mirai/>)参照。

まず授業で学生が学ぶ。そして理解した内容を、子どもたちに分かりやすく伝える...という、授業とコラボしている部分もあるんです。それぞれの学ぶコースごとに協力して頑張っていますね。

「もちろん学生だけで上手に回るものでもありません。時には子どものことがまだよく分からない学生に、教員が「この内容で分かっているか？」とアドバイスし、修正を繰り返す企画もあります。最初からガイドラインを示せば学生は迷い回りをせず、教員側も指導が楽なはず。しかし、それを行わないからこそ価値があると小方准教授は考えています。

「大人から見れば段取りや効率が悪いところも目につきますが、学生に思い切りやらせてみることも教員の役割。やりとげることが学生の力になります。」

最近では高校生向けのオープンキャンパスも同時に開かれるようになり、園児から高校生、保護者まで、幅広い年代の「留学生」が香川大学を訪れるようになりました。ときばと会場を仕切る学生の姿は、子どもたちだけでなく、進学に悩む高校生にもまぶしく映るようです。

「2002年からのイベントですが、もう教育学部の中には小学生のときに留学生として参加していた学生

がいるんです。本当に「未来からの留学生」だと感動しました。高校のときにオープンキャンパスに訪れたという学生は、案内を担当した学生らの緑のキャップが印象に残っていたようですね。入学してすぐ「私もあの帽子を被って会場案内がしたいです！」と言ってくれたり。教員も学生も、そんな言葉が聞けると元気が湧き出ます。」

夢中になっている子どもを見てみると、教員も学生もニコニコ。子どもや高校生が学生に自分の未来を重ねるように、学生も自分を見つめるキラキラしたまなざしの中に、未来の自分を見ているのかもしれない。

時代とともに教員に求められる資質は変わります。それでも変わらないのは、教員が子どもたちの未来を育む大切な仕事であること。障害児教育史を研究し、通常学級にいる特別な支援が必要なき子をサポートする仕組みづくりに関わっている小方准教授は、教員を志望する学生に「生きづらさを感じる子どもを理解し、彼らの未来を切り開く力を伸ばせる先生になってほしい」と願っています。

今年の「未来からの留学生」は10月14日に開催されます。たくさんの方々が輝く会場、あなたの参加をお待ちしています。

# 小方朋子

## PROFILE

おがた ともこ  
教育学部 特別支援教育  
准教授 教育学修士  
専門分野：障害児教育学



国語領域の学生と先生が行った「昔の日本にタイムスリップ!名人めざそう☆百人一首!」でのひとコマ。



バナを使った「バナ電話」を作り、さらに改良してエコーマイクが完成!どんな声が出るのかな?わくわくする気持ちで伝わってきます。「理研の音大」受けたい授業」より。

# 泥一面に隠された豊かさ

干潟の中にあつた 海の恵みを支える秘密

## 見和彦 PROFILE

いちみ かずひこ  
研究推進機構 瀬戸内圏研究センター  
准教授  
専門分野: 浅海生産環境学

### KEYWORD

#### 【浅海研究】

海は陸に近いほど栄養価が高く、たくさんの生物が棲んでいます。このエリアの研究は沿岸海域から恩恵を受けている日本にとって重要なもので、「瀬戸内圏研究センター」は香川県での海苔生産の回復を含む増養殖環境の造成、浅海域における生物生産過程の解明などに取り組んでいる。  
瀬戸内圏研究センターHP (<http://www.kagawa-u.ac.jp/setouchi/index.html>)



浅海の魅力は「生物生産の高さ」と言う一見准教授。生き物を見付けるとの表情です。

見和彦准教授は農学部で学生を指導しながら、平成21年に設置された「香川大学瀬戸内圏研究センター」の庵治マリンステーションを拠点に海の研究をしています。  
「瀬戸内海は1980年代まで赤潮に悩まされた歴史があります。これは陸から海に流れ出した大量の窒素やリンによって植物プランクトンが異常に増えたため、その後の下水道整備などによって赤潮の数は大きく減少しました。しかし現在は、栄養物質の不足による養殖海苔の色落ちや漁獲量の減少が問題になっています。干潟は幼稚魚を育てる大切な場所でもあり、多くの機能をもつ干潟を守りながら、どのように栄養物質の排出量をコントロールしていくのか？」  
一見准教授の研究に、多くの人が注目しています。

見和彦准教授は農学部で学生を指導しながら、平成21年に設置された「香川大学瀬戸内圏研究センター」の庵治マリンステーションを拠点に海の研究をしています。ちよつと珍しいですが、よね？しかしその研究活動は高く評価されており、「一見准教授は農学部所属する多田邦尚教授（瀬戸内圏研究センター副センター長）、本城凡夫特任教授（同センター長）、滝川祐子農学部技術補佐員とともに平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者として表彰を受けています。表彰内容は「干潟を含めた浅海域環境研究と、市民への普及啓発」そして成果を地域社会へ還元してきた活動」。

「海の研究で「干潟」という海とも陸とも言える場所を探るのもまた、珍しいですよ？」  
「もともと海洋学は外洋の研究からスタートしていますからね。干潟も含めて、陸に近い沿岸海域は様々な要因がからむので複雑で分からないことも多く、それだけに面白いんですよ」。

学生時代から赤潮や貝毒を引き起こすプランクトンについて研究していた一見准教授は、香川大学への赴任を機に瀬戸内の干潟に注目。干潟にいるプランクトンサイズの微小な藻類を調査するうちに、それを食べている貝類、さらにそれを食べる鳥も調べ始めました。

そして発見したのが干潟にやって来る渡り鳥。シギが「バイオフィルム（微生物膜）」を餌にしていること。これまでシギは「カイヤカニなどの小動物のみを食べている」と考えられていましたが、「一見准教授らによる国際共同研究グループがシギが泥の表面をいばむ様子やフンの調査からこの定説を覆したのです。これは世界初の発見！バイオフィルムは特に泥質の干潟でよく発達するそうですが、このような干潟は微妙なバランスで成り立っていて人が簡単に作れるものではありません。過去20年で数が

半分にまで減ったシギを守るためには、残された干潟をしっかりと守っていく必要があります。  
また、干潟は「水質浄化の場」と言われてきましたが、その明確な根拠は今まで出されていませんでした。そこで一見准教授は、河川と海の間干潟があると富栄養化物質と呼ばれる窒素やリンがどのように変化するかを調査し、干潟が浄化槽のように有機物を分解して海に返している事実を日本で初めてデータで証明したのです。

「調査では瀬戸内圏研究センターの「カラススIII」を母船にして、僕が小型調査船を駆って1〜2時間おきに観測点で海水を採集。学生が海水をひたすらろ過して化学分析する作業を繰り返しました。調査は24時間以上におよぶ連続観測ですが、干潟サロンの名付けられた夜食会（夜光虫の光カール）で雨に濡れた真夏の夜など、思い出深い観測ばかりです（笑）」  
そして明らかになったのが干潟のスポンジ機能です。「たとえば春や夏に河川から窒素やリンが干潟へ100流れて来るとします。この時期は干潟に生息する生物の活動が盛んなので、それらは彼らに取り込まれるなどして干潟の中に溜め込まれ、海へ流れ出る量は30〜50くらいに抑えられます。逆に生物が伏んでいる秋から冬には、これまでに干潟に溜められていた窒素やリンが海に放たれていきます。干潟はスポンジみたいですね。干潟がなければ、これらの物質は河川から即座に海へ流れ出てしまうのです」。

瀬戸内海は1980年代まで赤潮に悩まされた歴史があります。これは陸から海に流れ出した大量の窒素やリンによって植物プランクトンが異常に増えたため、その後の下水道整備などによって赤潮の数は大きく減少しました。しかし現在は、栄養物質の不足による養殖海苔の色落ちや漁獲量の減少が問題になっています。干潟は幼稚魚を育てる大切な場所でもあり、多くの機能をもつ干潟を守りながら、どのように栄養物質の排出量をコントロールしていくのか？」  
一見准教授の研究に、多くの人が注目しています。

# 私を守る数ミリの皮膚

「キビは病気でいい」。宗廣明日香助教の言葉を受けて、取材スタッフの間に中高時代の思い出が蘇りました。でも、ニキビだからって病院に行くのは大げさですよね？

「いえ、自己流で治療する方が多いようですが、ニキビは重症になると顔中が赤くなったり化膿し、痕が残るんです。最近では新しい治療薬も出ていますから、気になる方はぜひ皮膚科を受診していただきたいです」。

「ニキビの症状が重い方は、うつ状態になるほど悩んでいる」と調査結果もある。お肌の悩みは、決して皮膚のみで終わるものではありません。宗廣助教は皮膚科医として患者さんを診ながら、大人ニキビ患者さんを対象に臨床試験を行ったり、テレビなどでスキンケアの重要性についての啓発活動も行っています。

「チョコレートはニキビの原因」など、私たちが「常識」「ニキビに」と思っている情報は実は科学的な根拠がないことも多いのです。専門家のお話を聞くことがいかに重要かわかりますね。では、どんなことに気をつければニキビは予防できるのでしょうか？

お肌は心の鏡です

洗い残しがないように洗い流してください。その際「ゴシゴシ」と洗いきない事が肝心です。その後は化粧水や乳液で保湿して下さい。治療には塗り薬や抗菌内服薬を使います。ニキビが改善した後は、自分にあったニキビ用化粧品を使用し、ニキビのできにくい肌を維持しましょう」。

また、若い頃から心がけてもらいたいのは、日焼け止めの利用なのだそうです。

「日焼けの害は早ければ十数年後に出てくることもあります。若いころから紫外線対策をせずに無防備に日に当たっていると、顔面にシミや首にはスキントックという小型のイボが出てくることもあります。ここで注意してほしいことは、シミやイボだと思っていいたら実は皮膚がんで、発見が遅れるという例もあることです。素人判断は禁物です」。

美容から生命にかかわるものまで皮膚科がカバーする病気は多いのです。また、目に触れる顔面などの病変では患者さんのメンタル面への影響も大きいと言えます。例えば、顔や頬のニキビを髪を伸ばして隠し、目線を下に向けていた人が、治療により良くなるにつれ、どんな表情や態度も前向きに明るくなっていく、そんな患者さんを見たいです。皮膚

にトラブルがあったら「こんなことで」「たかが皮膚病で」と思わずに受診してほしい、と宗廣助教は願っています。

宗廣助教が皮膚科医を志したのは、大学5年生の実習が決めた時でした。皮膚科では、赤ちゃんからお年寄りまですべての年齢が患者になります。症状は今話題になったニキビや皮膚がんの他にシミ、アトピー、水虫など様々で、内科的な対応から外科手術まで行えるやりがいがある専門領域です。皮膚病で患者さんの精神心理面に影響が及ぶこともあり、「皮膚は心の鏡」と言われる所以です。厚さは数ミリの皮膚ですが、その面積や重量は人体で最大の臓器とされています。内臓の異常から皮膚に影響が表れることもあります。毎日の診療現場では皮膚の複雑さと奥深さを感じています。

「香川大学の皮膚科は女性の医師が多く、結婚や出産後も勤務を続けている医師が多い事も、同じ女性の私としては皮膚科を進路に選んだ一つの要因です。香川大学医学部は1〜6年まで学生が密に接することができ、附属病院が医学部に隣接している、実習でお世話になった先生方や後輩の学生と一緒に働けるというのもいいですね。コミュニケーションが取りやすく大変働きやすい職場です」。



「日焼け止めを塗った後は、クレンジング剤を使ってきちんと落とすことが大事」と宗廣助教。



ご存知でしたか？香川大学医学部附属病院ではケミカルピーリングもやっています。

## KEYWORD

### [スキンケア]

洗顔、化粧水、乳液、美容液を使ったお手入れや、日焼け止めを利用した皮膚の炎症やがんの予防を指す。ニキビの治療にも洗顔指導などのスキンケアが大切である。肌は体を守る役割も果たしているため、若者男女問わずスキンケアは欠かせない。

# 宗廣明日香

## PROFILE

むねひろ あすか  
医学部 医学科  
助教 医学博士  
専門分野：皮膚科学